

聖心の月に

主任司祭 吉池 好高

いつくしみの特別聖年のうちに、聖心の月を迎えています。イエスの聖心において示されている、神のいつくしみにあらためてわたしたちの心に向けましょう。聖マリア・マルガリータ・アラッコクが幻のうちに見たイエスの聖心は、いばらの冠に囲まれ、槍で貫かれたイエスの心臓でした。傷口から血を滴らせ、愛の炎に燃える聖心は、わたしたちに神のいつくしみをこれ以上にはないほどに、余すところなく示しています。ヨハネ福音書に語られているイエスの十字架の場面の最後には、イエスの死を決定づけるために、兵士が槍でイエスのわき腹を刺し貫いたと語られています。すると、すでに死んでおられたイエスのわき腹から血と水が流れ出たのでした。

このようなイエスの最後のお姿を語るヨハネ福音書の意図は、その三日後に復活されるイエスは確かに十字架の上に死なれたことを証しするためであり、また、イエスはその血の最後一滴までも、ささげつくした真のいけにえとして、そのいのちをわたしたちのために与え尽してくださったことを証しするためです。

「これを見た者が証ししている。その者はこの証しが真実であることを知っている」とヨハネ福音書のイエスの十字架の場面は締めくくられています。イエスの聖心に対する信心を広めるきっかけとなった聖女はイエスの受難を黙想する中で、ヨハネ福音書が証しする、主イエスの聖心のお姿を幻のうちに見たのです。聖心のうちに脈打つ血の最後一滴までも与え尽されたイエスの愛の献身によって、わたしたちの教会は誕生し、その教会の中でわたしたちは洗礼を受けて、イエスの血による贖いの恵みを受けたのです。その御子を惜しまずにお与えになった神のいつくしみの真実であることを、イエスの十字架の死において示されたイエスの聖心はわたしたちに訴えています。

神のいつくしみの特別聖年のこの聖心の月、わたしたちの心のうちにも、聖女が幻のうちに見たイエスの聖心のお姿がしっかりと焼き付けられるよう祈りたいと思います。イエスの聖心のうちに脈打っている愛のいのちが、わたしたちの心のうちに、豊かに脈打ち始めることを願って祈りましょう。